

## センダンによる中毒が疑われたホルスタイン種乳用牛の一症例

東播基幹家畜診療所

○白澤純一 永岡正宏 三谷 睦  
大山一郎 上田茂樹 奥田紳一郎

センダンは関東以西にみられる落葉高木であり、消化器系・神経系に異常を与える毒を有する。今回、ホルスタイン種乳用牛においてセンダン中毒が疑われた症例に遭遇したのでその概要を報告する。

### 材料および方法

1. 発生農場はフリーストール方式で成乳牛 22 頭、育成牛 10 頭を飼養し、放牧場を併設。
2. 2012 年 1 月～12 月の放牧状況と疾病発生状況を調査した。
3. 症例牛は 2003 年 11 月 13 日生まれ。2012 年 10 月 28 日に 7 産目を分娩。
4. 症例牛に対し 2012 年 11 月 14, 19, 28 日に血液生化学検査と血液一般検査を実施した。  
11 月 19 日に糞便中残渣の検査を実施した。
5. 2012 年 11 月 19 日に放牧場の点検を実施した。

### 結果

1. 2010 年 5 月より放牧を中止していたが、2012 年 5 月より再開した。
2. 2012 年 7～9 月に早期流産(60～100 日齢)が 6 頭、10～11 月に消化器疾患が 4 頭発生した。消化器疾患はすべて放牧場帰りの発症であった。
3. 症例牛は 2012 年 11 月 13 日夕方、放牧場より牛舎に戻った直後、食欲廃絶、水様下痢便排泄、起立困難となるため往診し、盲腸拡張と診断したので開腹手術を実施した。手術後、症状の改善は見られず 2 日間の起立不能が続いたが、その後対症療法を続け、11 月 16 日に自力起立、11 月 21 日には食欲と便性状が正常に回復した。
4. 血液検査では Ca, IP, Mg の減少, AST, Glu, CK, WBC の増加がみられた。糞便中の残渣からセンダンの種子が検出された。
5. 放牧場にはセンダンが植樹されており、複数枝で実や葉が採食された形跡を認めた。

### 考察

本症例は、当初盲腸疾患を疑い腸管手術を実施したが症状の改善はみられなかった。本症例が放牧場より牛舎に戻った直後の発症であり、過去にも放牧場帰りの牛が消化器疾患を発症していることより植物による中毒を疑った。そこで放牧場の点検、糞便中残渣の検査を実施したところ、採食の形跡があるセンダンを発見し、また糞便中残渣からはセンダンの種子が検出された。センダン中毒での報告がある AST, CK の増加が本症例でも認められた。しかし、センダン毒の主成分であるメリアトキシンは測定用試薬が無く、確定診断には至らなかった。発症後放牧を中止したところ、現在まで同様の症例は発生していない。それらのことより本症例はセンダンによる中毒であると思われた。